

研究余話

杉田陸海

【第一話】私は、天然物有機化学の構造生化学分野に籍を置き、世間の人あまり見向きもしない動物達を材料として複合脂質の構造と機能について研究をしている。この地球上で、我々と同じように生きている数え切れない動物種の中から、動物分類に沿って研究材料とする目当ての動物を選び出すのは大変難しい。私にとって最良の研究材料は、分類学的にその動物種を最も特徴付けている動物で、大量に入手できる動物である。もし、そのような動物がいたら何処へでも出かけ、私自身の手で採集することができる動物であれば、陸、海、空を問わず採集に行く。

1991年6月11日発刊、全144冊、毎週火曜日発売、21世紀に残したい地球と動物の全記録。週刊朝日百科『動物たちの地球』のダイジェスト版が私の所に送られてきた。それを持って図書館へ行き、「全冊揃えれば、動物大百科になる。ぜひ教室に備えたい」と、購読をお願いし、理解を得た。その第7号（8月4日発行）を読んでいた時、ある頁で、私の目が釘付けになった。

『日本では、キシヤステが中部山岳帯において8年周期で大発生することが知られている。このヤステが1976年に大発生したときは、ハヶ岳山麓を走る小海線の線路に大群が押し寄せ、列車がスリップして進めなくなったほどで、…1984年にも大発生を見たが、さて、次の1992年はどうなるだろう』（原文のまま）。

当時、私は、分類学上最も上位に位置付けられている節足動物の昆虫類（ハエ類）と甲殻類（エビ類）を調べ、これらの動物種を特色付ける新型糖脂質の存在を発表していた。ヤステは節足動物の倍脚類に属している。こんな動物は誰も調べていない。もし採集できれば…、高まる興奮を抑えて、執筆者の石井実先生（大阪府立大学）に電話をして、キシヤステの生態を研究しておられる吉田利男先生（信州大学）を紹介してもらった。吉田先生曰く『私の予想では、来年（1992年）もきっと大発生しますよ。10月頃が最も採集に良いでしょう。その頃に連絡をさしあげますよ。私もご一緒し、ご案内しますよ。』、涙が出るほどうれしかった。

それから1年、1992年の10月の初旬に吉田先生から『沢山です。採集にいらっしゃい。』と、待ちこがれていた連絡が入った。清里高原のペンションをベースキャンプとして、毎夜、採集を続け、約5,000個体得ることができた。その後の分析で、節足動物に特徴的な糖脂質の存在を明らかにするとともに、倍脚類を特色付ける新

型糖脂質の一群を発見することができた。さらに研究を進めようとしていたところで材料が底をつき、次の大発生まで待つことにした。世紀末は、丁度、8年目に当り、今から胸をときめかせて大予言（大発生の予想）の命を待っている。

【第二話】私は、書庫の雰囲気大好きです。あの臭い、そして、一世を風靡し多くの読者を魅了した本達のざわめきが聞こえてくるような感覚の中で、床にどっかりと座り込んで、その本が書かれた時代の中にゆっくりと溶け込んでいくそんな空間がなんとも言えない。共同研究などで多くの大学、研究所を訪れるが、決まって図書館、それも書庫に案内を乞う。超近代的に改築され、利用者には大変便利であるが、本の臭いより金属臭や塗料臭が充満していて、私には何とも居心地が悪い。

研究材料として白羽の矢を立てた動物の形態や生態などを知るには動物図鑑が最適である。開架書架にも最新の動物図鑑が揃えられており、それらには実物そのものの大変きれいなカラー写真が掲載されていて、大いに参考になり、勉強もさせてもらう。しかし、私は、写真？かと見間違えう程、それぞれの動物の特徴を的確に、精巧に活かして、1本の黒鉛筆でスケッチされている書庫にある古い図鑑が好きだ。

その日も、書庫の床にどっかりと腰をおろして、動物の解剖図鑑、『日本動物解剖図説』（広島大学生物学会編）を読んでいた。この図鑑は、初版（1941年）『日本動物解剖図説』（広島文理科大学、広島高等師範学校博物学会編）の増補改訂版として1971年に復刊されたもので、その序に、初版は当時の学生の総力を結集して完成したものであると記され、全員の名前が載っていた。私はその中に、『（高師3年）川崎源』を見つけた。それは、私が尊敬する元滋賀大学学長で教育学者の川崎源先生であった。早速、先生に電話をし、お話を伺ったところ、学生時代の博物学の授業で、全員に材料が配られそれぞれが分担してスケッチをしたものであるとのことでした。厚かましくも、「もし、先生が初版本をお持ちでしたら私にください。」と申し入れをしましたところ、2日後に先生のスケッチされた解剖図に付箋を付した本が送られてきました。現在、私の手元に2冊の『日本動物解剖図説』がありますが、いつも初版本の方に手がのび、開ける度に、高名な教育学者が実験台上の動物の解剖図を一生懸命に描写しておられる姿が目につかびます。

（教育学部教授 すぎた むつみ）